

| 授 業 科 目 名 | 必修・ 選択別 | 単位 数 | 対 象 学 年 | 学 期 | 曜・限 | 主に使用 する言語 | その他に 使用する 言語 | 担当形態 |
|-----------|------------|---------|------------|-----|-----|--------------|--------------------|------|
| CPC | 必修 | 1 | 4 | 前期 | | 日本語 | | 単独 |

【担当教員】 診断病理学・西田 陽登

【科目名の英文】 Clinical-pathological conference

【授業の概要・到達目標】

病死者の解剖例を対象とし、肉眼像および組織像を観察、評価し、病歴と併せ総合的に当該症例の病態を解明し、病理診断報告書を作成することによって、病理解剖の重要性、CPC の臨床的意義を理解することを目的とする。

| 具体的な到達目標 | 医学科ディプロマポリシーとの対応 | | | | | |
|--|------------------|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 1. 実際の病死者例について、臨床経過を理解し、臨床的問題点を挙げる。 | 2 | | | | | |
| 2. 病理解剖の肉眼所見及び組織所見を評価し、各臓器に認められる所見の重要性や関連性を考慮して、主病変と副病変を列挙しまとめる。 | 3 | | | | | |
| 3. 臨床病理相関を行い、直接死因を含めた病態を整理したうえで、剖検報告書を作成する。 | 3 | | | | | |
| 4. これらのプロセスを通じて、病理解剖および CPC の全体像を把握すると共に、その重要性を理解する。 | 2 | | | | | |
| 各 DP への関連度 (計 10) | 10 | | | | | |

【授業の内容】

| 回数 | 授業項目 | 授業内容 | 担当講座・教員 | 方法 |
|----|--------|---------------|------------|----|
| 1 | CPC 講義 | CPC の概要 症例呈示 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |
| 2 | CPC 講義 | CPC の概要 症例呈示 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |
| 3 | CPC 講義 | CPC の概要 症例呈示 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |
| 4 | CPC 講義 | CPC の概要 症例呈示 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |
| 5 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 6 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 7 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 8 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 9 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 10 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 11 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 12 | CPC 実習 | 病理解剖例の供覧、診断実習 | 診断病理学講座 西田 | 実習 |
| 13 | CPC 講義 | 症例解説 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |
| 14 | CPC 講義 | 症例解説 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |
| 15 | CPC 講義 | 症例解説 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |
| 16 | CPC 講義 | 症例解説 | 診断病理学講座 西田 | 講義 |

【アクティブラーニングの内容】

8人から9人の小グループで、鏡検、議論しながら診断を進める。各人で診断レポートを作成し、提出する。

【その他の工夫】

履修期間中に病理解剖が実施される場合は、遺族、担当医の承諾を受け、病理解剖の見学を実施する

【時間外学修の内容と時間の目安】

| | |
|--------|---|
| 準備学修 | バーチャルスライド化した組織切片スライドをパソコンモニター上で観察し、復習する (12h)。 |
| 事後学修 | 講義スライドや教科書による復習 (12h)、レポート作成 (18h)、希望者には履修期間後でも病理解剖見学の機会提供を考慮する。(4h)。 |
| 想定時間合計 | 40 時間 |

| | |
|---|--|
| 【教科書】 教科書を指定しない。 | |
| 【参考書】 ロビンス基礎病理学原書 11 版（豊國伸哉他監訳，エルゼビアジャパン，2025 年），組織病理アトラス第 6 版（深山正久他，文光堂，2015 年），病理組織の見方と鑑別診断第 7 版（吉野正他，医歯薬出版，2020 年） | |
| 【成績評価方法及び評価の割合】 レポート提出と試験を課す。 上記の具体的な到達目標が達成されているかを下記の配点で評価する。レポートの評価においては，特に直接死因を含めた病態が適正に評価されているかを重視する。 点数配分は，レポート 60%、試験 40%とし，60 点以上を合格とする。 | |
| 【注意事項】 教材となる病歴、組織切片スライド等は実習室外に持ち出さない。バーチャルスライドアクセスのためのパスワードは他に教えない。 | |
| 【備考】 昨今、画像診断技術の発達がめざましい。肉眼所見、組織所見と当該画像データを対比し、画像診断の知識を深めることも望まれる。 | |
| リンク | URL |
| | |
| 教員の実務経験の有無 | 有り 医師 |
| 教員の実務経験 | |
| 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 教員以外で指導に関わる者はいない |
| 教員以外の指導に関わる実務経験者 | 教員以外で指導に関わる者はいない |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各臓器の解剖学、病理学ならびに総合的な病態について講義し、実習の指導を行う。 |
| 授業形態 | 対面を原則とする。 |